

令和 6 年度

「運営に関する計画」

大阪市立三稜中学校

令和 6 年 4 月

1 学校運営の中期目標

現状と課題

- 学校規律の徹底を図ることにより、学校生活における安心・安全を確保し、落ち着いた状況で日々の学習活動を行っている。不登校生徒については別室登校や関係機関とのつながりにより改善傾向があるものの今後も日常の家庭訪問や時間をかけたきめ細やかな対応が必要である。
- 特別支援学級在籍で学校になじめず不登校傾向にある配慮の必要な生徒もおり、個に応じた指導を充実させている。
- いじめ問題については、アンケートや教育相談の実施、タブレットパソコンを使った心の天気、相談機能などを活用し、早期発見、早期解決に取り組んでいる。安心して成長できる環境が整った状態を維持しつつ、いじめについては「いつでも、どの生徒にも、どの学校においても起こり得る」という認識のもと、学校体制の連携を強化して早期発見、早期解決に全力で取り組んでいく。
- 令和5年度より、職場体験を再開し、将来に向けて考える良い機会をつくることができた。校内調査において「将来の夢や目標を持っていますか」の肯定的な回答は4ポイント増加している。今後も将来の夢、目標を持つ意義や、将来に向けての前向きな展望を考える機会を多くつくり、キャリア教育や進路学習を進めていく。
- 確かな学力の向上のために、タブレットパソコン(一人一台端末)を活用した教育活動の推進、授業改善を進めており、生徒の学習意欲の向上がみられる。今後も教職員の積極的な授業改革に対する意欲の高揚を図り、「わかる授業」を研究し実践に移していく。
- 令和5年度の中学生チャレンジテストの対府比平均を同一母集団で比較すると、3教科・5教科とも向上がみられる。しかし、校内調査における「まじめに授業に取り組んでいる」の肯定的回答は、学年によって差があり、全体として令和4年度より1ポイント下がっている。授業改善を進めるとともに、学習意欲をさらに高める工夫が必要である。
- 英語科における授業実践に合わせて、令和5年度も英語検定の校内団体受検会場として127名が受検している。今後も、生徒に目標を持たせ、英語の4技能の向上を進めていく。
- 令和5年度の全国体力・運動能力・運動習慣等の調査結果については、体力合計点は、男女とも全国・大阪市平均を下回った。2年生を対象としており、学年によって差が大きい。特に男子は50メートル走・立ち幅跳び、女子は、反復横跳び・立ち幅跳びが低い結果となっており、敏捷性に課題が残る。
- 教員の勤務時間に関する基準1(時間外勤務が週45時間・年間360時間を超えない)を満たす教職員の割合は増えているが、今後も業務のスリム化、勤務時間を意識した働き方が必要である。

中期目標

【安全・安心な教育環境の推進】

- 年度末の校内調査における「学校生活は楽しいですか」に対して、肯定的に回答する児童生徒の割合を90%以上にする。
- 令和7年度の全国学力・学習状況調査の「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童生徒の割合を、85%以上にする。
- 毎年度末の校内調査において、前年度不登校生徒の改善の割合を毎年、前年度より増加させる。
- 令和7年度の全国学力・学習状況調査の「将来の夢や目標を持っていますか」の項目について、肯定的に答える生徒の割合を、70%以上にする。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 令和7年度の調査の「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」の項目について、肯定的に答える生徒の割合を75%以上にする。
- 令和7年度の全国学力・学習状況調査の各教科の標準化得点(全国平均を100とする)を、令和3年度より向上させる。
- 令和7年度の全国体力・運動能力、運動習慣等調査の体力合計点を、令和3年度より5ポイント向上させる。
- 令和7年度の全国学力・学習状況調査の「朝食を毎日食べていますか」、「毎日、同じくらいの時刻に起きていますか」それぞれに対して、肯定的な回答をする生徒の割合を90%以上にする。

【学びを支える教育環境の充実】

- 令和7年度末の全国学力・学習状況調査の「学習の中でコンピューターなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思いますか」の項目について肯定的な回答を95%以上にする。
- 令和7年度には、ゆとりの日については、週1回以上設定する。
学校閉庁日については、夏季休業期間中は3日以上、夏季休業期間以外の休業期間においては1日以上設定する
- 令和7年度の校内調査の「読書は好きですか」の項目について、肯定的に答える生徒の割合を、70%以上にする。
- 令和7年度末の保護者アンケートの「学校は家庭・地域との連携を密にとっている」の項目について、肯定的に答える保護者の割合を増加させる。

2 中期目標の達成に向けた年度目標（全市共通目標を含む）

【安全・安心な教育の推進】

全市共通年度目標（中学校）

- 年度末の校内調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を80%以上にする。
- 年度末の校内調査において、不登校生徒の在籍比率を前年度より減少させる。
- 年度末の校内調査において、前年度不登校生徒の改善の割合を増加させる。

学校園の年度目標

- ① 年度末の校内調査における「学校生活は楽しいですか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を87%以上にする。
- ② 年度末の校内調査における「命や人権の大切さについて考える学習がある」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を96%以上にする。
- ③ 年度末の校内調査における「将来の夢や目標を持っていますか」の項目について、肯定的に答える生徒の割合を、67%以上にする。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

全市共通年度目標（中学校）

- 年度末の校内調査における「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を38%以上にする。
- 中学生チャレンジテストにおける国語および数学の平均点の対府比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より0.02ポイント向上させる。
- 大阪市英語力調査におけるCEFR A1レベル相当以上の英語力を有する中学3年生の割合（4技能）を60%以上にする。
- 年度末の校内調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する生徒の割合を55%以上にする。

学校園の年度目標

- ① 全国学力・学習状況調査の各教科の標準化得点(全国平均を100とする)を、昨年度より向上させる。
- ② 全国体力・運動能力、運動習慣等調査の体力合計点を、大阪市平均以上にする。
- ③ 年度末の校内調査における「朝食を毎日食べていますか」に対して、食べていないと回答をする生徒の割合を5%以下にする。
- ④ 年度末の校内調査における「授業はわかりやすく楽しいですか」に対して、肯定的に回答する割合を85%以上にする。

【学びを支える教育環境の充実】

全市共通年度目標（中学校）

- 授業日において、生徒の８割以上が学習用端末を活用した日数が、年間授業日の５０％以上にする。[ただし、事務局が定める学校行事等 ICT 活用が適さない日を除く]
- 第２期「働き方改革推進プラン」に揚げる教員の勤務時間の上限に関する基準１を満たす教職員の割合を４３％以上にする。

学校園の年度目標

- ① 年度末の校内調査において、「図書室を利用したことがありますか」に対して、「ない」と回答する割合を２２％以下にする。
- ② 年度末の校内調査において、「学校の様子をホームページ・通信等で情報公開をよく行っている」に対して、肯定的に回答する割合を９５％以上にする。

３ 本年度の自己評価結果の総括

大阪市立三稜中学校 令和6年度 運営に関する計画・自己評価(目標別シート)

評価基準	A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
	C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【安全・安心な教育の推進】 全市共通年度目標(中学校) ○ 年度末の校内調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を80%以上にする。 ○ 年度末の校内調査において、不登校生徒の在籍比率を前年度より減少させる。 ○ 年度末の校内調査において、前年度不登校生徒の改善の割合を増加させる。 学校園の年度目標 ① 年度末の校内調査における「学校生活は楽しいですか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を87%以上にする。 ② 年度末の校内調査における「命や人権の大切さについて考える学習がある」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を96%以上にする。 ③ 年度末の校内調査における「将来の夢や目標を持っていますか」の項目について、肯定的に答える生徒の割合を、67%以上にする。	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】 いじめは、いつでも、どの生徒にも、どの学校においても起こり得るという認識のもと、早期発見、早期解決に取り組む。 <hr/> 指標 いじめ調査を学期に1回以上実施し、組織的に解決に取り組む。	
取組内容②【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】 生徒の現状と課題に即した教育相談活動を充実する。 <hr/> 指標 年間2回以上の教育相談週間を設けるとともに、タブレットパソコンの相談機能の活用や1日に1回以上、心の天気の利用を進める。	
取組内容③【基本的な方向2 豊かな心の育成】 人権学習に計画的・系統的に取り組み、人権感覚の向上と互いに認め合う集団づくりに取り組む。 <hr/> 指標 学校・学年の課題に即し、年間4分野以上の人権課題について実践を行う。	
取組内容④【基本的な方向2 豊かな心の育成】 3年間を見通した計画的・系統的なキャリア教育に取り組み、学年ごとに子どものニーズに合わせ将来について考える教育に取り組む。 <hr/> 指標 将来の生き方について考える学習があると肯定的に回答する割合を高める。	
取組内容⑤【基本的な方向2 豊かな心の育成】 感動する心や豊かな心を育む行事・取り組みを実施する。 <hr/> 指標 芸術鑑賞や体験学習、講演会をそれぞれ1回以上実施する。 人が困っているとき、進んで助けると肯定的に回答する割合を高める。	
取組内容⑥【基本的な方向2 安全・安心な教育環境の実現】 大阪市部活動指針に基づき、運動部や文化部の活動を充実させる。 <hr/> 指標 部活動に意欲を持って取り組み、「部活動が活発で楽しい生徒ですか」の肯定的回答の割合を高める。	

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

【年度目標】について

全市共通年度目標（中学校）

-
-
-

学校園の年度目標

- ①
- ②
- ③

【取組み内容】について

- ①
- ②
- ③
- ④
- ⑤
- ⑥

今後への改善点

【目標設定】について

大阪市立三稜中学校 令和6年度 運営に関する計画・自己評価(目標別シート)

評価基準	A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
	C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【未来を切り拓く学力・体力の向上】</p> <p>全市共通年度目標(中学校)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 年度末の校内調査における「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を38%以上にする。 ○ 中学生チャレンジテストにおける国語および数学の平均点の対府比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より0.02ポイント向上させる。 ○ 大阪市英語力調査CEFR A1レベル相当以上の英語力を有する中学3年生の割合を60%以上にする。 ○ 年度末の校内調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する生徒の割合を55%以上にする。 <p>学校園の年度目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 全国学力・学習状況調査の各教科の標準化得点(全国平均を100とする)を、昨年度より向上させる。 ② 全国体力・運動能力、運動習慣等調査の体力合計点を大阪市平均以上を目指す。 ③ 年度末の校内調査における「朝食を毎日食べていますか」に対して、食べていないと回答をする生徒の割合を5%以下にする。 ④ 年度末の校内調査における「授業はわかりやすく楽しいですか」に対して、肯定的に回答する割合を85%以上にする。 	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】</p> <p>各調査やテスト等の結果を分析し、学習サポーターの活用や、放課後・テスト前学習などの補充学習により、基礎・基本の定着に取り組む。</p> <p>指標 全国学力・学習状況調査、大阪府チャレンジテストの平均無解答率を減少させる。</p>	
<p>取組内容②【基本的な方向5 健やかな体の育成】</p> <p>体育の授業を中心に、筋力・巧緻性・瞬発力等を高める運動を実施する。</p> <p>指標 全国体力・運動能力の各種目の平均値を向上させる。</p>	
<p>取組内容③【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】</p> <p>授業研究や相互授業参観などを実施し、教員の授業力向上に取り組む。</p> <p>指標 全教員が研究授業を年間1回以上実施するとともに、1回以上授業を参観する。</p>	
<p>取組内容④【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】</p> <p>C-NETやデジタル教科書、デジタル教材の活用により、4技能すべての力の向上を図る。</p> <p>指標 大阪市英語力調査(GTEC)におけるCEFR-Jの評価を4技能すべてA1レベル以上の英語力を有する中学3年生の割合を高める。</p>	
<p>取組内容⑤【基本的な方向5 健やかな体の育成】</p> <p>「食育通信」や「保健だより」などを通し、食育を推進する。</p> <p>指標 毎月1回以上、「食育通信」や「保健だより」を発行し、特に朝食の必要性について生徒の意識を向上させる。</p>	
<p>取組内容⑥【基本的な方向5 健やかな体の育成】</p> <p>生活アンケートを実施し、生徒の生活リズムなどの状況を把握する。</p> <p>指標 生活アンケートを年間1回以上実施し、結果を生徒・保護者へ周知する。</p>	

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

【年度目標】について

全市共通年度目標（中学校）

-
-
-
-

学校園の年度目標

- ①
- ②
- ③
- ④

【取組み内容】について

- ①
- ②
- ③
- ④
- ⑤
- ⑥

今後への改善点

【目標設定】について

大阪府立三稜中学校 令和6年度 運営に関する計画・自己評価(目標別シート)

評価基準	A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
	C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【学びを支える教育環境の充実】 全市共通年度目標(中学校) ○ 授業日において、生徒の8割以上が学習用端末を活用した日数が、年間授業日の50%以上にする。[ただし、事務局が定める学校行事等ICT活用が適さない日を除く] ○ 第2期「働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準1を満たす教職員の割合を43%以上にする。 学校園の年度目標 ① 年度末の校内調査において、「図書室を利用したことがありますか」に対して、「ない」と回答する割合を22%以下にする。 ② 年度末の校内調査において、「学校の様子をホームページ・通信等で情報公開をよく行っている」に対して、肯定的に回答する割合を95%以上にする。	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【基本的な方向6 教育デジタルトランスフォーメーション】 ICTを活用した、主体的・対話的・深い学びにつながる授業研究に取り組む。 指標 日々の学校生活でICT機器を活用できているという項目で肯定的な回答する割合を高める。	
取組内容②【基本的な方向7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】 業務の効率化や外部人材により教職員の業務軽減を図る。 指標 月に1回以上、勤務時間を点検し、時間外勤務を前年度以下にする。	
取組内容③【基本的な方向8 生涯学習の支援】 図書館を環境整備するとともに、定期的に本紹介のポスターや図書だよりを発行し、読書への興味を高める。 指標 図書室を利用したことがない生徒の割合を下げる。	
取組内容④【基本的な方向9 家庭・地域と連携・協力した教育の推進】 HPの活用や学年・学級通信を定期的に発行し、学校の情報を積極的に発信する。 指標 ホームページの更新回数を前年度以上にする。	

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
【年度目標】について 全市共通年度目標(中学校) ○ ○ 学校園の年度目標 ① ②

【取組み内容】について

- ①
- ②
- ③
- ④

今後への改善点

・重点		令和6年度 主体的・対話的・深い学びのある授業づくり（目標）
	教科	各教科の目標
1	国語	・漢字の読み書きの能力を高め、基礎的な内容の定着をはかり、国語力の向上をはかる。
2	社会	・基礎的な知識、技能の定着を図り、言語活動や発表活動を通して思考力、判断力、表現力を醸成する。 ・ICT 機器を活用し、効果的・効率的な授業展開を工夫する。
3	数学	・基礎学力の定着させることに加え、ICT を活用した授業を展開し、数学的思考力を高める。 ・グループワーク等、数学的な言語活動を行い、数学的思考力や表現力を育む。
4	理科	・「思考・判断・表現」の能力向上のために、主体的な実験や観察の機会を多く設ける。 ・「主体的に学習に取り組む態度」を培うために、小テストや自主課題をおこない、計画的に学習する機会をつくる。 ・「知識・技能」の能力向上のために、記述式や応用の問題に取り組む時間を設ける。
5	音楽	・表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、音楽表現をする為の技能を身につけ、思考判断した作者の思いを表現につなげる活動を行う。 ・音楽アンケートなどを作成・活用し主体的・対話的な学びのある授業づくりを目指す。
6	美術	・学習プリントやワークシートを用いた学習で、基礎的な知識・技能の定着を図る。 ・鑑賞と表現を通して、創造の喜びを体験させる。
7	体育	・体育委員のリーダーシップを育み、生徒主体の授業を展開する。 ・一人一人の基礎体力を向上させる。 ・前向きに取り組む協力し合う集団を目指す。
8	技術・家庭	・生徒が興味・関心を持って授業に取り組めるように教材の精選を行なう。 知識理解につながるよう視覚教材やタブレット端末を活用し、深い学びにつなげて、実践で生かせるよう「生きる力」を育む。
9	英語	・C-NET や ICT 機器の活用により、英語への関心を高め、4 技能(Listening, Reading, Speaking, Writing)の向上を図る。
10	道徳	・教材を深く理解し、人間としてのより良い生き方を考え、実践する態度を育てる。 ・他者の意見を聞く機会を設け、多様性を理解するとともに、自他の生命を尊重して懸命に生きようとする実践意欲を高める。
11	特別支援学級	・個別の教育支援計画、個別の指導計画を本人、保護者の願いを基に作成し、指導、支援を明確にし、多様な学びの場の中で個々に応じた目標を設定し、達成できるようにする。その中で自立活動を取り入れ、できることを増やす。

重点		令和 6 年度 主体的・対話的・深い学びのある授業づくり	
	教科	経過達成状況	今後の問題点
1	国語		
2	社会		
3	数学		
4	理科		
5	音楽		
6	美術		
7	体育		
8	技術・ 家庭		
9	英語		
1 0	道徳		
1 1	特別支 援学級		